

令和6年度行政評価（令和5年度実施分）に
係る答申書

令和6年（2024年）9月
宝塚市行政評価委員会

目次

答申にあたって	1
(1) 第6次宝塚市総合計画評価対象 27 施策（対面評価 10 施策、書面評価 17 施策）	3
(2) 第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略評価対象 4 施策（対面評価）	4
(3) 地方創生推進交付金評価対象 2 事業（対面評価）	4
2 第6次宝塚市総合計画評価	4
(1) 評価の視点	4
(2) 評価結果	5
4 第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価結果	44
5 デジタル田園都市国家構想交付金の評価結果	48
6 委員名簿	50

答申にあたって

本答申に掲載している宝塚市行政評価委員会の活動は、7月中旬から約1ヶ月間にわたって行われたものです。委員の皆様や担当部局の職員の皆様、また行政評価委員会の事務局職員の皆様のこの間のご協力に深く感謝を申し上げます。

今般の行政評価委員会では、第6次宝塚市総合計画の27施策、第2期夢・未来たからづか創生総合戦略の4施策および地方創生推進交付金の2事業を対象とする審議を行いました。

これらのうち第6次宝塚市総合計画については、本年度まででいったん一巡します。このことを踏まえ、本年度の「答申にあたって」では、総括的に重要と思われる論点を指摘しておきます。それは、施策評価の成果指標についてです。

従来の行政評価では住民の生活上の影響として成果指標（アウトカム指標）が重視されてきました。ここでよく活用されてきたのが「住民アンケート」における「住民意識」でした。「住民意識」を用いるのは、従来の行政活動の実績ベースでの説明（活動指標やアウトプット指標）では住民生活にどのような影響があったのかわかりにくいという批判があったこと、また、数量的客観的な成果指標がよいという風潮があったことによるものと思われます。全国的にも市町村で行われている行政評価では、「住民意識」の指標がよく成果指標に用いられています。

ただし、「住民意識」の指標は、経年変化が少なく、行政活動が積み上げられても大きく変動するものではありません。なによりも重要なのは、個別の事業を担う担当部局の行政活動の見直しには活用することが難しいという点です。

行政評価ではこの成果指標を軸として、「行政活動の結果としてどのようなメリットや変化があったのか」という議論を重ねます。したがって、変化の小さな成果指標を用いれば、「現在の行政活動には見直しの余地はない」という話になります。そうなれば、「行政評価には意味がない」とか、担当部局においては「無駄な作業をさせられている」という話にもなりかねないことが危惧されます。

もちろん、行政評価は取り組む価値はないのかということ、そうではありません。本答申を見ていただければ一目瞭然ですが、当委員会の活動は、担当部局では気づかないような点を指摘していますし、担当部局が直面している困りごとを見いだすことにも貢献しています。また当委員会では、市民に分かりやすい説明を求めているところです。

行政評価の活動には、多くの手間暇や行政コストがかかっています。したがって、これになるべく生かせるようにしていく必要があります。宝塚市におかれましては、いったん設定した成果指標に過度にこだわりすぎず、指標を通じて市民が行政のあり方をより深く知ることができるよう、これからも積極的な改善を続けていただければ幸いです。

宝塚市行政評価委員会委員長 南島和久

1 評価対象施策及び評価の方法

宝塚市行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、市長より諮問を受け、（１）第６次宝塚市総合計画の２７施策、（２）第２期夢・未来 たからづか創生総合戦略の４施策及び（３）地方創生推進交付金の２事業を対象として評価を行った。

具体的な評価対象施策又は評価対象事業は以下の（１）～（３）のとおりであった。

なお、（１）第６次宝塚市総合計画の２７施策のうち特に意見を求められた１０施策については対面評価、残りの１７施策については書面評価とした。書面評価については、各委員からコメントを出していただき、これを精査した上で担当部局との調整を経て確定した。第２期夢・未来 たからづか創生総合戦略の４施策及び地方創生推進交付金の２事業については全て対面評価として行った。

委員会の開催日程は以下のとおりである。

回数	日時・場所	主な審議内容
第１回	令和６年７月１８日（木） ９：３０～１２：００ 宝塚市役所４階 政策会議室	・ 諮問 ・ 行政評価について ・ 評価の進め方について 等 【第６次宝塚市総合計画】２施策 ・ １-１（１）、１-２（３）
第２回	令和６年７月２４日（水） ９：３０～１２：００ 宝塚市役所４階 政策会議室	【第６次宝塚市総合計画】４施策 ・ １-３（１）、１-４（１）、１-５（１）、３-４（１）
第３回	令和６年７月２５日（木） ９：３０～１２：００ 宝塚市役所４階 政策会議室	【第６次宝塚市総合計画】４施策 ・ ３-１（１）、３-１（２）、３-２（１）、３-３（１）
第４回	令和６年８月１日（木） ９：３０～１２：００ 宝塚市役所４階 特別会議室	・ 夢・未来 たからづか創生総合戦略（基本目標３ 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり） ・ デジタル田園都市国家構想交付金評価
第５回	令和６年８月２０日（火） ９：３０～１２：００ 宝塚市役所３階 ３Ｂ会議室	・ 答申協議

委員会における対面評価の方法は以下のとおり。

ア 担当部局から内容説明を受け質疑応答を行った。

イ 委員会での討議のうえ、見解をまとめた。標語については委員会にて確定した。

委員会における書面評価の方法は以下のとおり。

ア 各委員が担当する施策について各自のコメントを記入した。

イ 各委員から提出されたコメントを取りまとめ、正副委員長調整の上、原案を作成した。

ウ 原案は第５回委員会にて確定した。なお、標語については委員会にて確定した。

(1) 第6次宝塚市総合計画評価対象 27 施策（対面評価 10 施策、書面評価 17 施策）

めざすまちの姿	施策分野	めざすまちの姿の実現に向けた施策	対面評価	書面評価
1 共に創り、未来につながるまち～都市経営～	1 市民自治・協働	1-1 (1) 市民自治の基盤となる地域自治の確立	○	
		1-1 (2) 様々な市民活動の充実		○
		1-1 (3) 市民と行政の協働の推進		○
	2 人権・男女共同参画	1-2 (1) すべての人の人権が尊重されるまちづくりの推進		○
		1-2 (2) 戦争や核兵器のない平和な社会の実現		○
		1-2 (3) すべての人が性別にとらわれず、自分らしく暮らせるまちづくりの推進	○	
	3 開かれた市政	1-3 (1) 市民との情報共有の推進	○	
		1-3 (2) 市民との交流と対話の推進		○
		1-3 (3) まちの魅力の効果的な発信		○
	4 情報化	1-4 (1) 誰もが利便性、サービス向上を実感できるデジタル行政の推進	○	
		1-4 (2) デジタルシフトによる効率的な行政事務の推進		○
	5 行財政経営	1-5 (1) 時代にふさわしい市民サービスの追求	○	
		1-5 (2) 時代の変化に対応できる職員の育成と組織体制の整備		○
		1-5 (3) 将来の見える行財政経営の推進		○
3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～	1 健康・医療	3-1 (1) 健康意識の向上とライフステージに応じた健康づくりの推進	○	
		3-1 (2) 妊産婦・子どもへの母子保健事業の推進	○	
		3-1 (3) 安心・安全な地域医療体制の確保		○
	2 地域福祉	3-2 (1) 多文化・共生型の地域づくり	○	
		3-2 (2) 包括的な相談支援体制づくり		○
	3 高齢者福祉	3-3 (1) 高齢者が自分らしくいきいきと暮らせる環境づくり	○	
		3-3 (2) 望む場所で安心して暮らせる体制づくり		○
	4 障害（がい）者福祉	3-4 (1) 障害（がい）のある人の自立に向けた地域支援体制の整備	○	
		3-4 (2) 障害（がい）のある人の権利擁護の推進		○
		3-4 (3) 障害（がい）のある子どもの成長を支える取組		○
		3-4 (4) 障害（がい）のある人の就労支援や生活支援の推進		○

	5 社会保障	3-5 (1) 生活困窮者等の経済的・日常的・社会的な自立の促進		○
		3-5 (2) 健やかな暮らしを支える医療保険制度等の適切な運営		○

(2) 第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略評価対象4施策（対面評価）

基本目標	基本的方向
【基本目標3】 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	基本目標3(1) 地域における産業振興と雇用の確保
	基本目標3(2) 多様な文化政策の展開
	基本目標3(3) 観光集客の推進
	基本目標3(4) 北部地域のまちづくり

(3) デジタル田園都市国家構想交付金評価対象2事業（対面評価）

NO.	事業名称
1	やる気が生み出すイノベーション！新たな一歩応援事業
2	新しい生活様式に対応した起業家支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～

2 第6次宝塚市総合計画評価

(1) 評価の視点

委員会の審査にあたっての「評価の視点」については以下のア～クを基本とすることを確認した。なお、これら以外の論点についても重要と思われる点については掲記することとした。

- ア 施策を構成する主な事務事業の取組が施策の方向性に沿っているか。
- イ 施策の目標達成に向けて、成果指標が適正に設定されているか。
- ウ 取組内容や成果指標の結果等から、総合評価（担当部評価）は妥当か。
- エ 「評価の理由」及び「達成状況とその理由」が分かりやすく、明確な内容となっているか。
- オ 「施策実現のための課題」が適切に把握できているか。
- カ 「課題を踏まえた今後の取組」について、どのように課題を解決していくのか明確に記載されているか。
- キ 知見に基づくアドバイスや事例紹介など。
- ク その他、評価表が市民にとってわかりやすく記載されているか。

(2) 評価結果

ア 第6次宝塚市総合計画（めざすまちの姿の実現に向けた施策）の評価

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っている。 ○協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。
31の施策分野	1-1 市民自治・協働
施策	(1) 市民自治の基盤となる地域自治の確立
施策の方向性	○まちづくり協議会の活動の充実に支援し、市民への認知度の向上に取り組めます ○地域ごとのまちづくり計画の実現に向け、地域との調整を図る仕組みを構築し、地域と連携しながら取り組めます ○まちづくりに関わるすべての個人や団体（自治会、市民活動団体など）の連携を促進します ○自治会の加入率向上などに関する支援を行います
施策を構成する主な事務事業	コミュニティ活動支援事業 自治会活動支援事業
関係する計画等	地域ごとのまちづくり計画
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☒ その他
評価結果	・自治会への補助金については、どのような用途で使われ、施策の達成にどのように貢献したのかを明確にしていく必要がある。 ・他市では、まちづくり協議会から自治会が抜けていく例もある。どのようなルートで住民の意見を集約していくべきかが問われている。まちづくり協議会の持続可能性について、しっかりと検討すべき時期を迎えているのではないかな。 ・直接的な効果測定が難しい場合、審議会の開催回数など、行政活動の実績を測る指標を設定する方が、より本質的な議論に近づくのではないかな。 ・まちづくり協議会ができて20年がたち、認知度アップや組織の確立は達成された。これからは、活動内容の充実にシフトチェンジすべきではないかな。これまでの振り返りも必要である。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っている。 ○協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。
31の施策分野	1-1 市民自治・協働
施策	(2) 様々な市民活動の充実
施策の方向性	○様々な分野における市民活動の充実に向け、コミュニティビジネスなどの育成や支援に取り組みます ○市民の広域的な活動や地域課題を解決する活動などを支援し、活動を促進します
施策を構成する主な事務事業	市民活動促進支援事業 きずなづくり推進事業
関係する計画等	
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・ NPO 法人の数が伸びず目標達成ができていないことから、B 評価となっている。全国的に NPO 法人の数は頭打ちになっている。新規法人化が 4 件あったことを高く評価すべき。 ・ （前項と同じ趣旨で）量的拡大ではない形での指標の見直しが必要なのではないか。 ・ きずなづくり推進事業は NPO 法人も含めて連携した市民活動を支援する事業として、評価できる。ただし、採択されている事業の多くがイベントの支援となっており、恒例のイベント支援ではない活動の評価するなど、今後の工夫が必要である。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っている。 ○協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。
31の施策分野	1-1 市民自治・協働
施策	(3) 市民と行政の協働の推進
施策の方向性	○「協働の指針」の周知及び活用を図り、協働を更に推進します ○協働型事業の推進と検証に努めるとともに、更なる拡大を目指す新たな仕組みを構築します ○活動の担い手の発掘・育成の支援とつながりづくりに取り組みます
施策を構成する主な事務事業	市民協働推進事業
関係する計画等	宝塚市協働の指針
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・10年前を知らない市民には「なぜ協働が必要なのか」を理解できないと思われるため、継続的な説明が必要である。 ・成果指標①については見直しが必要である。 ・協働の推進には現場で市民と一緒に汗をかく協働も必要である。協働のリーダーを担える人材が現場で活躍してもらえるような取組が必要ではないか。 ・「市民と行政の協働の推進」を、行政が主導して市民に協力してもらうというだけでは、いつまでも行政に負担がかかりつづけることとなる。行政と市民の役割分担を推進し、行政機能の縮小を図るような取組も必要である。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きている。
31の施策分野	1-2 人権・男女共同参画
施策	(1) すべての人の人権が尊重されるまちづくりの推進
施策の方向性	○地域や学校など様々な場における人権教育及び啓発を推進します ○市民と行政の協働により人権教育及び啓発を進めます
施策を構成する主な事務事業	くらんど人権文化センター管理運営事業 まいたに人権文化センター管理運営事業 ひらい人権文化センター管理運営事業 人権啓発総務事業 人権啓発推進事業 人権文化センター総務事業
関係する計画等	第3次宝塚市人権教育及び人権啓発基本方針
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・「市民アンケート」のみで成果指標とすることは疑問である。例えば、講演会やセミナーの回数や参加人数を入れるなどの指標も加えてはどうか。 ・施策の方向性には「あらゆる施策を人権擁護の視点に立って進めます」「市民と行政の協働により人権教育及び啓発を推進します」とされている。全職員における人権研修の受講割合、市民と協働して行った啓発事業の実施数などを成果指標とすることも考えられるのではないかな。 ・人権文化センター関連事業について、研修への参加のみが事業内容のようにも見える。評価表により具体的に事業の内容を記載していただきたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きている。
31の施策分野	1-2 人権・男女共同参画
施策	(2) 戦争や核兵器のない平和な社会の実現
施策の方向性	○市民と行政の協働による平和事業に取り組みます
施策を構成する主な事務事業	戦没者追悼式関係事業 非核平和都市推進事業
関係する計画等	
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・本事業は、市民のつどいや平和アニメ映画会など多様な活動がみられ、評価できる。 ・成果指標では、今後、どういったことを目指していけばよいのか見えにくい。むしろ、市民協働の事業展開数や後世に平和の必要性を伝えるための官民連携会議の開催数など、より具体的なものを検討ありたい。 ・成果指標①の目標は過大ではないか。実績が全く追いついていない。指標の見直しが必要ではないか。 ・成果指標②の実績の上昇は世界的な地政学的リスクを反映したものでないか。より重要なことは、世界的な動向を踏まえ、市民の関心が高まっているこの時期に、行政の取組として関連するイベントを打ち出すことではないか。宝塚市の平和活動は熱心であり、しっかりと取り組まれていると思うので、それを表現できるような指標を検討していただきたい。

第 6 次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きている。
31 の施策分野	1-2 人権・男女共同参画
施策	(3) すべての人が性別にとらわれず、自分らしく暮らせるまちづくりの推進
施策の方向性	○すべての施策を男女共同参画の視点に立って進めます ○男女共同参画社会実現に向けた教育及び啓発を推進します ○あらゆる場への女性の参画を進めます ○女性への暴力の根絶とDVを許さない社会づくりを進めます
施策を構成する主な事務事業	男女共同参画センター管理運営事業 男女共同参画施策推進事業 DV対策推進事業
関係する計画等	第 2 次宝塚市男女共同参画プラン
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☒ その他
評価結果	・女性が働きやすいような DX 化の取組事例についての広報を積極的にご検討いただきたい（優良事例の横展開の推進）。 ・本施策は社会を大きく変えていくような施策のため、担当部署以外のどこと連携するかが大切である。戦略・戦術をたて、他団体、他部署との協働を図り、指標化の取組を一層進めていただきたい。 ・男女共同参画の研修について、もっと多くの学校に広がるよう学校教育、高校教育などにも周知を広げていくことを検討いただきたい。 ・女性参画が進みやすい職種とそうでない職種がある。事業者の職種を踏まえた研修や広報などを分析して、施策に取り込んでいただきたい。 ・アンケートについて、性別や年齢差などで比較を行うなどきめ細かく分析いただきたい。 ・市民アンケートでは行政活動の実績の評価ができない。アウトプット指標でもよいので、行政の努力が反映できる指標を検討されたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。 ○まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱(いだ)く人が増えている。
31の施策分野	1-3 開かれた市政
施策	(1) 市民との情報共有の推進
施策の方向性	○発信する情報の量と内容の充実に努めます ○各種広報媒体を活用し、すべての市民に必要な情報を的確に伝えます ○行政情報の積極的な公開と、ビッグデータ・オープンデータの利活用を推進します
施策を構成する主な事務事業	情報公開及び個人情報保護事業 広報事業 コミュニティー・FM放送事業
関係する計画等	宝塚市広報基本戦略
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☐ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☒ その他
評価結果	・公共の場で市民の意見を集めるなど対面の手法をもっと増やしてもよいのではないか。 ・デジタル化が進む中、今後、広報誌の縮小やHPの拡充も検討が必要ではないか。 ・「FM たからづか」について、ラジオ機能から動画配信等への転換の検討を積極的に進められたい。 ・情報格差の弊害を被る方々（とくに障碍（がい）者）について、さらに情報が届きやすくなるように取り組んでいただきたい。 ・市民に意見等を聴く媒体や目的が多様化する中、目的や対象に応じた情報提供・広聴のあり方についてさらなる整理や検討をいただきたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。 ○まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱(いだ)く人が増えている。
31の施策分野	1-3 開かれた市政
施策	(2) 市民との交流と対話の推進
施策の方向性	○ICTの活用など、市民の意見を聴く機会や仕組みの充実を図ります ○交流と対話、参画の場の充実に取り組みます
施策を構成する主な事務事業	広聴事業 パブリック・コメント事業
関係する計画等	

宝塚市行政評価委員会（書面評価）

改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・施策名「市民との交流と対話の促進」と成果指標①「『市役所が行う行政施策に関心がある』と回答した市民の割合」はどのように結びつくのか。成果指標がこれでよいのか再検討ありたい。 ・交流と対話が掲げられているが、施策を構成する主事務事業は「聴く」に偏っている。交流と対話の「場の充実」について、具体的にどのような場をつくり、どのように告知するか検討すべき。 ・テーマ・日程を決め、人を集め意見を募集する方法は、一般市民にとっては敷居が高い。本音が聴ける方法をさらに検討ありたい。例えば多くの企業が設ける「お客様相談センター」のようなものを開設してはどうか。 ・施策と指標の乖離が大きい。原因を分析し、2030年（総合計画の最終年度）に向けて、「課題と今後の取り組み」を具体化していただきたい。 ・広聴事業は、法律相談、広聴カード、ふれあいトーク（出前講座）ということだが、全庁的にはそれぞれの部局で多くの広聴事業が行われている。成果指標の外側にあるそうした全体的な規模感についても市民に伝わるように説明した方がよいのではないか。

第 6 次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。 ○まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱(いだ)く人が増えている。
31 の施策分野	1-3 開かれた市政
施策	(3) まちの魅力の効果的な発信
施策の方向性	○まちへの関心や愛着を高めるようなまちの情報や魅力を広く発信します ○市民や事業者と共に効果的な PR に取り組みます
施策を構成する主な事務事業	市民表彰等事業 ふるさと納税推進事業 企業版ふるさと納税推進事業 市制 70 周年記念事業
関係する計画等	宝塚市広報基本戦略
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☐ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・実績が出ており、A 評価は妥当である。 ・ふるさと納税について、寄附総額の 50%以上を宝塚歌劇関連のコンテンツが占めており、歌劇依存は否めないが、阪神競馬場来賓席招待や姉妹都市（松江市）との共同返礼品開発などにも力を入れている。引き続き宝塚のまちの魅力発信に繋がる新たな返礼品開発と PR に努められたい。 ・今後企業版ふるさと納税で多くの寄附金を得るには、自治体で「課題解決型プロジェクト」を立ち上げ、具体的な事業に対する寄附を得るなどの施策が有効ではないか。 ・R6 年度は市制 70 周年であり、R6 年度で企画・準備した 70 周年記念事業の実行や、周年事業に関連する市民表彰などの成果の刈取りに期待したい。 ・ふるさと納税は行政目線では確かに重要であるが、宝塚市には多くのまちの魅力がある。市民の視点に立てば、宝塚市に対してふるさと納税を行うことはできないわけであるから、それ以外のまちの魅力をどのように発信しているのかを説明してもらいたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○ICTの活用によるスマート自治体の推進により、行政事務が効率化するとともに、市民の利便性が向上している。
31の施策分野	1-4 情報化
施策	(1) 誰もが利便性、サービス向上を実感できるデジタル行政の推進
施策の方向性	○行政手続がデジタル上で完了する基盤を整備します ○高度なICTを活用し、教育、福祉などあらゆる分野で質の高い市民サービスを目指します ○システムの安定運用と個人情報の保護・情報セキュリティ対策の強化を進めます
施策を構成する主な事務事業	社会保障・税番号制度個人番号カード交付事業 住民票の写し等コンビニ交付事業 電子自治体化推進事業
関係する計画等	DX推進ビジョン
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☐ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☒ その他
評価結果	・指標①「マイナンバーカード交付率」の目標値100%は現実的ではないのではないか。 ・指標②「申請手続きのオンライン化率」についてR7に100%の目標が掲げられている。ボトルネックは各部署の対応ということであるが、しっかりとご支援願いたい。 ・生産性向上についてのデータ把握の工夫をさらに検討いただきたい。 ・オンライン手続きが進む一方、紙ベースでなければ申請できない方への配慮を引き続きお願いしたい。 ・契約等、紙媒体で残さざるを得ないものもあるが、デジタル化が一層進められるよう、さらなる対応策を検討いただきたい。 ・総合計画の見直しの際には、施策のタイトルを「時代に見合ったデジタル行政の推進」等への変更を検討いただきたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○ICTの活用によるスマート自治体の推進により、行政事務が効率化するとともに、市民の利便性が向上している。
31の施策分野	1-4 情報化
施策	(2) デジタルシフトによる効率的な行政事務の推進
施策の方向性	○職員が最大のパフォーマンスを発揮できるICT環境を整備します ○定型、繰り返し業務の徹底的な自動化を進めます ○業務情報のデータ化とエビデンスに基づく政策立案（EBPM）の推進に向けた環境整備に取り組みます ○ICT活用人材の育成に取り組みます ○自治体間の共同システムの利用を推進します
施策を構成する主な事務事業	情報ネットワークシステム管理事業
関係する計画等	DX推進ビジョン
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☐ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・業務や手続きのデジタル化は、多くの自治体では人材や資源調達の不足にともなう対応不全が起こっていることを聞き及んでいるが、提出資料をみるかぎり進めるべきことを進めていると理解できる。関係者の尽力を評価したい。 ・ICT活用でR5年度の非効率業務削減目標(25,000hr)に対し実績が89,895hrと3倍以上の大きな改善効果が得られているが、職員一人当たり年間総労働時間(1,920hr=8×20日×12カ月)に換算すると延べ約47名分の時間削減になる。果たしてそれだけ多くの職員あるいは時間外労働の削減効果が得られているのか。業務効率化の指標は、削減時間だけでなく当該業務の総作業時間を分母とする業務効率化比率（％）としてはどうか（10～30％効率化が一般的）。 ・DX・ICTを活用して業務効率化や新規事業立案を行うにはDX人材育成が必須で、特にデータ解析やビジネスモデル変革スキルが要求される。R5年度のICT活用人材の育成研修の受講延べ人数は目標を下回ったが、業務改革等と並行してR6年度以降（目標値は0）も目標スキルレベル設定やアセスメント検証を加え、人材育成に継続的に取り組んではどうか。 ・情報ネットワークシステム管理事業は、ネットワークやセキュリティ等のシステム運用管理や、PC・プリンタなどのIT機器更新・調達経費が主で、予算に収まっている(98.7%)ものの、年間約5.7億円の経

		費を掛けて業務効率化にどれだけ寄与したかなど、費用対効果の妥当性検証ができない。 ・ IT 投資額は一般的に売上高 1 %（製造業場合）が目安とされているが、行政サービス等の売上高相当額が不明なため、一概に判断できない。宝塚市一般会計額は約 900 億円で、この 1%が IT 投資とすれば約 9 億円で 5.7 億円は妥当。むしろ IT 投資額を増やして業務効率化や新規事業立案を促進すべきである。 ・ 業務の効率化は引き続き重要な課題となるが、網羅的な録画研修だけでなく、それぞれの現場でデジタル化による自己業務の効率化を検討できる人材の育成に努められたい。
--	--	---

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されている。
31の施策分野	1-5 行財政経営
施策	(1) 時代にふさわしい市民サービスの追求
施策の方向性	○自治体や民間などとの連携を進め、効率的・効果的で質の高い市民サービスを提供します ○業務改革を推進し、時代にふさわしい市民サービスを提供します ○公共施設マネジメントを推進します
施策を構成する主な事務事業	財産管理事業 自治体連携事業 公共施設マネジメント推進事業 施設保全管理事業 総合窓口化推進事業 行財政経営推進事業 企画調整事業
関係する計画等	夢・未来 たからづか創生総合戦略、宝塚市行財政経営方針、宝塚市行財政経営行動計画、公共施設等総合管理計画、宝塚市公共施設（建物施設）の保有量最適化方針
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☐ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☒ その他
評価結果	・包括連携協定数が伸びている。とくに R5 に目標の2倍の水準の連携取組実績数となったことは高く評価できる。間接的な影響があるという点も評価できる。 ・「時代にふさわしい市民サービス」というタイトルでは具体性がなく、様々な取組が混在しており、評価は困難なのではないか。総合計画を見直す際には、施策の括り方や適切な指標のあり方を検討いただきたい。 ・包括連携協定については、一度結んだ連携先にも継続的に顔を合わせるなど関係を引き続き維持していただきたい。これを維持する方法についても検討していただきたい。包括的連携協定に関する取組の持続的発展の方向性を追求していただきたい。 ・包括連携協定の取組の庁内における取組内容の共有についても追求ありたい。 ・公共施設のあり方について推進会議を設けたとのことであるが、さらなる関係部署間のコミュニケーションに努めていただきたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されている。
31の施策分野	1-5 行財政経営
施策	(2) 時代の変化に対応できる職員の育成と組織体制の整備
施策の方向性	○協働を基本に問題解決を図る職員を育成します ○スマート自治体への転換に向けた取組を進めます ○機能的で連携の取れた組織体制を整備します ○職員のワーク・ライフ・バランス、働き方改革を推進します ○職員の意識や組織風土の改善に取り組みます
施策を構成する主な事務事業	人事管理事業 総務事業 研修事業
関係する計画等	宝塚市定員管理方針、宝塚市定員適正化計画

宝塚市行政評価委員会（書面評価）

改善を求める点	□説明の充実 □指標の改善 ☒ 業務の改善 □体系の整理 □その他
評価結果	・設定した内容が実行に移されている状況と理解できる。 ・総務事業では、室制度の見直しと組織改編や、次長に部局横断的な調整機能付与、トップマネジメント体制の強化、CXO 補佐官等の任用など、専門性が高くより効率的で実効性ある体制整備が図られたことは評価できる。目的に応じた組織（手段）のシンプル化と責任・権限の委譲を進めていただきたい。 ・人事管理事業では、適材適所な人員配置や人事評価、昇格制度の適正運営、勤怠管理システムによる給与支給コスト抑制などに取り組まれているが、これら業務はDX・ICT化で人材開発プラットフォームやスキルマップ化が可能であり、効率化やコスト削減も合わせて指標に掲げて進めていただきたい。 ・研修事業は「人材育成基本方針」に基づきeラーニング導入やキャリア研修、DX研修などを企画・開催し、受講後アンケート評価の満足度も高く評価できる。今後はSDGsへの貢献を意識し、人権や環境、ダイバーシティなど研修メニューを拡充し、人的資本投資と意識・レベルの向上に努め、市民に対する公共サービス事業の品質向上を期待する。 ・組織改革、あるいは組織風土改革は評価になじみにくい領域であることを踏まえ、いま変えるべき行政文化は何かという視点で、市民に分かりやすく、幅広い改革の取組をPRできるよう、施策評価表には工

		夫を凝らしていただきたい。評価の理由や今後の取組にはまだほかにPRすべきことがあるのではないかな。 ・電子決裁率について、進捗が見られるものの当初設定した目標が達成されていないのは、目標が過大であったか、電子化されるべき手続きが電子化されていないためか、あるいは他のボトルネックがあるかである。原因を特定し対応していくことが期待される。 ・高い値がでがちな研修の満足度ではなく、内容に対する理解度チェックの方が適切ではないか。簡単な Q&A 程度でも、研修を作成する側に講義内容の重要点を問う設問を作ってもらい、受講後に満足度とともに確認すると、成果をよりの確に測定できる。 ・「協働」的思考を業務のなかに折り込んでいくことが謳われているが、実際の取組の記載がない。今後の検討に期待したい。 ・職員の能力開発については、重要な課題であり、デジタル化を支える人材や職務への動機と技術の向上などをめぐって、どのように人材を育成するかを全庁的に共有しつつ見直し、進めていく必要がある。
--	--	---

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	1 共に創り、未来につなぐまち～都市経営～ ○人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されている。
31の施策分野	1-5 行財政経営
施策	(3) 将来の見える行財政経営の推進
施策の方向性	○財政規律に基づき財政健全化を図り、将来にわたる責任ある行財政経営を推進します ○施策の有効性や効果などについて可視化し、市民から信頼される効率的、効果的な行財政経営を推進します
施策を構成する主な事務事業	財政事務事業 市民税賦課事業 市税徴収事業 資産税賦課事業 企画調整事業
関係する計画等	宝塚市行財政経営行動計画、財政規律 夢・未来 たからづか創生総合戦略
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☐ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・実質単年度収支のマイナスが生じたにもかかわらず「B」評価となっているが、市立病院への経営支援が原因であれば、これを「評価の理由」に書いた上で、それでもなお「B」評価とした理由は何かを丁寧に説明すべきである。 ・市税等の収納率は、これまでの尽力でほぼ上限に達していると思われる。 ・将来の財政見通しについて、「今後10年間で約112.8億円の収支不足を見込んでいる」とある。財政を適正に制御する手段を他に検討すべきではないか。川西市の事業別予算決算、さらには岐阜県多治見市の予算決算と連動する総合計画システム（と財務健全化条例）のような、事業の体系を全体として可視化し議論する仕組みが検討に値する。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。 ○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。
31の施策分野	3-1 健康・医療
施策	(1) 健康意識の向上とライフステージに応じた健康づくりの推進
施策の方向性	○生活習慣改善や感染症に関する啓発などにより、疾病予防や健康づくりを推進します ○健診などにより、生活習慣病などの早期発見や重症化の予防に取り組めます ○啓発や自殺予防対策に取り組み、心の健康づくりを推進します
施策を構成する主な事務事業	食育推進事業 健康センター管理運営事業 予防接種事業 がん等検診事業 新型コロナウイルスワクチン接種事業 後期高齢者健診事業 自殺予防対策事業
関係する計画等	健康たからづか 21（第2次後期計画）、宝塚市次世代育成支援行動計画、たからっ子「育み」プラン（後期計画、（母子保健計画）、やさしいたからづか推進計画、第3次たからづか食育推進計画、宝塚市地域包括ケア推進プラン、
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・本施策には様々な施策があるが、将来的に施策の括り方についてこれでよいのか、再検討いただきたい。 ・自殺予防対策については今後も全庁的にこれを推進していただきたい。 ・施策を構成する事務事業のいずれも評価が高いにも関わらず、指標②「国民健康保険特定健康診査の受診率」が達成できていないためB評価となっているのがこれでよいのか。行政活動の努力が反映されるような指標を採用すべきではないか。 ・指標①「市民アンケートで意識的に健康づくりに取り組んでいると回答した市民の割合」については、行政でコントロールできない相場的な指標であるため違う指標を検討していただきたい。 ・食育推進事業は成果指標がないが、評価欄にはコメントがある。わかりやすくなるよう記載内容を整えていただきたい。

		・子宮頸がん検診の受診率が低く、受診率の向上に重点的に取り組んでいることから指標③「子宮頸がん検診受診率」を設定していることがわかった。こうした背景がわかるように、市民目線のわかりやすい表現で評価表を記入いただきたい。
--	--	---

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。 ○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。
31の施策分野	3-1 健康・医療
施策	(2) 妊産婦・子どもへの母子保健事業の推進
施策の方向性	○妊娠・出産・子育てに関する相談支援や情報提供など、妊産婦や子ども、家庭への切れ目のない支援に取り組みます ○妊娠期からの児童虐待防止や育てにくさを感じる保護者への支援に取り組みます
施策を構成する主な事務事業	母子保健相談指導事業 未熟児養育医療給付事業 母子保健健康診査事業 母子保健訪問指導事業 出産・子育て応援交付金事業
関係する計画等	健康たからづか21（第2次後期計画） 宝塚市次世代育成支援行動計画たからっ子「育み」プラン（後期計画）（母子保健計画）
宝塚市行政評価委員会（対面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・妊産婦・乳幼児の全数把握は高く評価できる。この点は市民にとって重要であるので、広報を強化していただきたい。 ・乳幼児未受診時調査の取組はフォローアップも含めて高く評価できる。こうした取組が評価に反映されるように検討していただきたい。 ・成果指標③「育てにくさを感じた時に対処できる親の割合」は意味がわかりにくい。わかりやすい表現に見直しはできないか。 ・成果指標①は別の事務事業評価でも使われている。同じ成果指標を使うのであれば事業統合を検討できないか、という疑問につながる。整理していただきたい。 ・宝塚市は医療従事者が顕著に多く、民生費の割合も高い。これはこれまでの蓄積の結果でもあるので、PRに使えるのではないか。本施策が示すのは、「宝塚市では幸せに暮らせる」ということではないか。 ・既に目標値を達成している指標の目標値が据え置かれている。目標値の変更や指標自体の差し替えについて検討いただきたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。 ○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。
31の施策分野	3-1 健康・医療
施策	(3) 安心・安全な地域医療体制の確保
施策の方向性	○地域の医療機関や介護施設との連携を深めます ○市内外の医療機関の連携により地域の救急医療体制を確保します ○市立病院の集学的がん診療体制を強化します ○新たな中長期計画に基づき、市立病院の経営の安定化を図ります ○市立病院の医療機能や病床規模の見直しに取り組みます
施策を構成する主な事務事業	病院経営改善事業 地域医療連携推進事業 救急医療推進事業
関係する計画等	
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・病院経営改善事業にある看護師の新規採用と離職率防止に向けた対策に引き続き取り組んでいただきたい。 ・「施策の方向性」に「市立病院の集学的がん診療体制を強化します」とあるが、がん診療体制の強化の今後の取組について記述が必要ではないか。 ・「施策の方向性」に「地域の医療機関や介護施設との連携を深めます」とあるが、救急から在宅まで市内の医療機関との連携が分かる説明等があった方がよいのではないか。 ・事業評価にある「病院としての目標を各所属、ひいては各職員の行動目標にまではブレイクダウンできておらず、病院の経営状況や向かうべき方向性は周知できているものの、病院目標に向かい各職員がどのように行動すべきかが明確になっていないのではないか」と捉えている」という点については、重要な認識である。公立病院では、自治体規模は異なるが、芽室町立病院が現病院長のもと黒字化を達成していく過程で、問題意識に対応するような取組を進めており、参考になるかもしれない。 ・地域医療を支える機関の重要性は言うまでもなく、引き続き取組を期待する。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。 ○誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。
31の施策分野	3-2 地域福祉
施策	(1) 多文化・共生型の地域づくり
施策の方向性	○福祉に関する意識を高め、地域福祉活動につなげるため、福祉教育の充実を進めます ○課題を抱える人や、地域福祉の担い手が気軽に立ち寄り、話し合うことができ、誰もが共に活躍できる多様な居場所・拠点づくりを進めます ○地域福祉をコーディネートする人材や、地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成を進めます
施策を構成する主な事務事業	地域福祉推進事業 総合福祉センター管理運営事業
関係する計画等	宝塚市地域福祉計画（第3期）

宝塚市行政評価委員会（対面評価）

	改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☐ その他
	評価結果	・タイトルの「多文化共生」に該当する事業が存在しない。総合計画を見直す際に、施策体系について実態に即したものとなるよう再整理いただきたい。 ・福祉教育推進校やクールスポット事業について、市民にとって内容が分かりやすくなるように記載を充実させていただきたい。 ・成果指標③「住民向け地域福祉講座の参加者数」について、達成状況とその理由欄の記載がわかりづらい。ボードゲームが大事なのか、それともボードゲームを使って市民に何かを理解してもらうということが大事なのかが分かるように説明ありたい。 ・地域福祉推進事業において社会福祉協議会の補助金額だけを活動指標とすることには疑問が残る。中身が分かるような指標を検討すべき。 ・指標③「住民向け地域福祉講座の参加者数」について、福祉人材の掘り起こしにどれだけつながったかを説明ありたい。 ・市の目標に3段階のステップを置いて整理してはどうか。①引きこもりの防止、②リスクリリング、③活躍の場のマッチングという形でストーリーラインを引いて整理してはどうか。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。 ○誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。
31の施策分野	3-2 地域福祉
施策	(2) 包括的な相談支援体制づくり
施策の方向性	○災害などの非常事態にあっても共に助け合い、誰もが安心を感じられるよう、普段からの多様な主体による見守り・支え合いを促進します ○社会制度の狭間や、市民が抱える複合的な生活課題に対応するため、総合相談支援体制を構築・強化します
施策を構成する主な事務事業	民生児童委員活動事業 生活支援体制整備事業
関係する計画等	宝塚市地域福祉計画（第3期）、宝塚市地域包括ケア推進プラン
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☐ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・民生・児童委員活動事業は活発であるとされているが、これを指標として表現することはできないか。民生・児童委員の方々がこの施策評価表を見た際に、自分たちの活動を確認することができたり、問題を共有することができたりするような工夫はできないか。 ・民生・児童委員の役割は大変大きいことから、成果指標に民生・児童委員の欠員数を入れてはどうか。 ・全国的に民生委員などの高齢化や社会環境の複雑化などにより負担が大きい状況にある。民生委員の負担を軽くするなど、活動を補佐する取組があれば、具体的に説明ありたい。 ・参画する市民層を広げる観点からいえば、（1）多文化・共生型の地域づくりや市民自治や人権の分野との連携も必要である。既存の取組があれば具体的に説明ありたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。
31の施策分野	3-3 高齢者福祉
施策	(1) 高齢者が自分らしくいきいきと暮らせる環境づくり
施策の方向性	○健康寿命の延伸を目指し、健康づくり・介護予防を推進します ○社会参加や世代間交流を通じて、生きがいづくりを促進します ○高齢者が抱える課題や地域課題を共有し、共に考え、身近な地域で支え合う仕組みづくりを推進します
施策を構成する主な事務事業	介護予防普及啓発事業 高齢者社会参加・健康促進事業 老人福祉センター事業 包括的支援事業 障碍（がい）高齢者タクシー運賃助成事業 介護予防普及啓発事業
関係する計画等	健康たからづか21（第2次後期計画）、第8期宝塚市介護保険事業計画、宝塚市高齢者福祉計画、第9期地域福祉計画

宝塚市行政評価委員会（対面評価）

改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・ヘルパー不足など市の課題を市民に分かるように記載し、その課題が解決に向かっていることが測れるような指標を検討ありたい。 ・成果指標②「高齢者アンケートで生きがいがあると回答した市民の割合」は行政活動による大きな改善が見込めない。それにも関わらず、この指標が評価に大きく影響している。指標の変更の必要がある。 ・事務事業の指標の重複が見られる。同じ指標を使うのであれば事業の統合を検討すべき。また、別の課で同じ名称の事業を実施しており、わかりづらい。事業名を調整すべき。 ・指標①「65歳以上の要支援の認定率」についても、目指す方向性は低下しているのに、目標値は年々上昇している。この理由が分かるように「達成状況とその理由」に説明を記載していただきたい。 ・「施策の方向性」にある「社会参加や世代間交流」についての記載がない。説明を追記すべき。もしこの内容が他の施策に包含されるならば施策体系を整理すべき。 ・元気な高齢者と福祉サービス等が必要な高齢者など施策ごとにターゲットを明確化することで施策のくくりをわかりやすくできるのではないか。市民がわかる形に整えていただきたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。
31の施策分野	3-3 高齢者福祉
施策	(2) 望む場所で安心して暮らせる体制づくり
施策の方向性	○介護サービスの整備や、介護する家族の支援に向けて、多様なニーズに対応した支援の充実を図ります ○認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症についての啓発や、支援体制の整備に取り組みます ○高齢者が、医療や介護サービスを受けることとなっても、望む場所で安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉の連携を強化します
施策を構成する主な事務事業	高齢者見守りネットワーク事業 成年後見制度利用支援事業 地域密着型介護予防サービス等給付事業 地域包括ケア推進事業 認知症総合支援事業
関係する計画等	宝塚市高齢者福祉計画、第9期地域福祉計画・宝塚市地域福祉計画（第3期）、宝塚市介護保険事業計画
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・施策の方向性には、「望む場所で安心して暮らせる」とある。にもかかわらず、成果指標はこれを表現する形になっていない。あくまでも「望む場所」で安心して暮らすという選択肢があることを指標とすべきではないか。 ・「高齢者アンケート」の結果が指標とされているが、直接的な評価指標を立てるべき。実施した主な事業内容は、事業所の新設・開設であるので、これを評価指標としてはどうか。 ・グループホームの居住者は、地域内からの入居者なのか。この点も説明が必要ではないか。 ・担当部局評価では、地域包括ケアプランを策定したことが書かれているが、このプランに沿った取組はこれからのようである。これから進める事業が明確になったという意味で「B評価」としているのか。過去の実績に対して進捗したかどうかを評価の根拠とすべきではないか。いずれにしろ丁寧な説明が必要である。全体として、評価指標、評価理由、評価の関係が大変わかりにくい。 ・成果指標はすべて、同様のアンケートを実施している他市町と比較するか施策実施後の効果の測定がしにくいものとなっている。成果指標

		は再考すべき。他市町と比較するような指標を必要とする場合は、オープンデータの活用などが考えられる。なお、介護サービスは全国的な制度であることから、近隣他市とのサービス水準の比較は、市民側から見て重要な情報となる。 ・医療・介護・福祉の連携の状況が分かる成果指標を検討ありたい。
--	--	---

第 6 次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害(がい)のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。
31 の施策分野	3-4 障害(がい)者福祉
施策	(1) 障害(がい)のある人の自立に向けた地域支援体制の整備
施策の方向性	○障害(がい)のある人が地域で安心して暮らすため、障害福祉サービス等の提供体制を整備します ○障害(がい)のある人の社会参加の実現を目指します ○障害(がい)のある人が安心して暮らせる支援体制の充実を図ります
施策を構成する主な事務事業	障害(がい)者福祉事業 地域生活支援事業 自立支援事業 身体障害(がい)者支援センター管理運営事業 地域活動支援センター及び障害者小規模通所援護事業
関係する計画等	宝塚市第 5 次障害(がい)者施策長期推進計画、 宝塚市障害福祉計画(第 7 期)、宝塚市障害児福祉計画(第 3 期)
宝塚市行政評価委員会(対面評価)	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・指標①「計画相談支援・障害児相談支援の利用者数」について、相談件数が増えることが社会的に果たしていいことなのか。「めざす方向性」は相談件数が増える方向を向いている。目標値の設定について再検討すべきではないか。 ・専門人材が不足しているという課題があるとのことなので、指標化できないか検討ありたい。また、地域支援体制の支援体制が測れるような成果指標を検討ありたい。 ・指標②「社会参加に関わる相談件数」について、本件相談がどのように支援につながっているのかを市民に伝わるようにしていただきたい。 ・障害(がい)者福祉事業の中身が現在の指標の書き方では見えない。工夫いただきたい。

第 6 次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害(がい)のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。
31 の施策分野	3-4 障害(がい)者福祉
施策	(2) 障害(がい)のある人の権利擁護の推進
施策の方向性	○障害(がい)を理由とした差別の解消に取り組みます ○障害(がい)者虐待の防止に取り組みます ○成年後見制度の活用を推進します
施策を構成する主な事務事業	権利擁護支援事業
関係する計画等	宝塚市第 5 次障害(がい)者施策長期推進計画 宝塚市障害福祉計画(第 7 期)
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・ 障害(がい)者の権利擁護の取組として、今後さらに重要視される施策である。権利擁護支援事業の相談件数を見ても、目標値を大幅に上回っており、ニーズの顕在化がうかがえる。 ・ 実施内容は「運營業務を民間に委託したことのみ」と読めるがそれでよいのか。委託したとしても、委託先が担う業務と、それをモニタリングし、方向づける役割について記述する必要があるのではないかな。 ・ 成果指標①では、「障害(がい)者虐待の通報件数」があげられているが、その数が上昇することが高い評価につながるような形になっている。社会的には虐待通告件数が減少するように環境整備に尽力すべき。 ・ 成果指標①について、通告を受けたもののうち適切な社会資源や支援につながったものの割合にするなど、実際の予防や解決に向けた取組を表わす数値が示されるとよいのではないかな。 ・ 成果指標②について、「成年後見制度新規相談実人数」となっているが、件数の表記に留めるのではなく、相談を受けたもののうちの件数など、割合表記にするとより目指すべき方向性が明確になる。 ・ 運營業務の分担を整理し、行政活動の役割と委託先の活動のチェックを整理ありたい。また障害(がい)は固有性が高いことから、ニーズや現状の課題をどう拾い上げるかが重要となる。現場の努力と課題が可視化される指標の検討を期待する。

第 6 次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害(がい)のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。
31 の施策分野	3-4 障害(がい)者福祉
施策	(3) 障害(がい)のある子どもの成長を支える取組
施策の方向性	○乳幼児期からの療育・発達支援を推進します ○障害(がい)のある子どもの地域生活を支える取組を推進します ○障害(がい)のある子どもの療育に応じた障害児通所支援等の提供体制を整備します
施策を構成する主な事務事業	子ども発達支援センター事業 保育所等訪問支援事業 障害児相談支援事業 障害児通所給付事業
関係する計画等	宝塚市第 5 次障害者施策長期推進計画、宝塚市次世代育成支援行動計画、宝塚市障害児福祉計画(第 7 期)
宝塚市行政評価委員会(書面評価)	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・障害(がい)児や発達に課題があると思われる子どもの数は増加傾向にある。今後さらに積極的な推進が求められる。 ・成果指標①において、「障害児通所支援事業の利用者数」があげられているが、目標値は年々増加する設定となっている。この目標値を設定した意味(数の増加?顕在化の途上と判断?)、算出した根拠は何か。受給者証が発行されたうちの利用者数の割合など、成果指標の再考も必要である。 ・施策評価表、事務事業評価表ともに記述量に乏しく、施策や事業の実態が理解できない状態にある。事務事業評価表の指標においても何を意味する数値なのかの説明が不足している。例えば、子ども発達支援センター事業の「延べ登園人数」などは、何を説明しようとしているのか。単独通園の子ども数か、同伴数か。保育所等訪問支援事業においては、保育施設への訪問のみならず、小中校にも訪問しているようであるが、活動指標からはそれらは読み取れない。別の指標も考えられるのではないか。 ・母子保健やたからっ子総合相談センターとの連携が強く求められる分野であることから、重層的支援体制の構築も念頭に置いて、今後の方向性を検討するとよいのではないか。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。
31の施策分野	3-4 障害（がい）者福祉
施策	(4) 障害（がい）のある人の就労支援や生活支援の推進
施策の方向性	○障害（がい）者就業・生活支援センターを中心に就労や就労定着の支援に取り組みます ○障害（がい）者就労支援施設等利用者の工賃向上のための取組を推進します ○ハード・ソフト両面での生活環境の整備に取り組みます
施策を構成する主な事務事業	障害（がい）者生活支援事業 自立支援医療給付事業 障害（がい）者就労支援事業 障害（がい）・障害（がい）者理解市民啓発事業
関係する計画等	宝塚市第5次障害（がい）者施策長期推進計画 宝塚市障害福祉計画(第7期)
宝塚市行政評価委員会（書面評価）	
改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☒ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・事業実績ベースでの成果指標の設定になっているが、これに加え、障害（がい）のある人から見て、宝塚市の行政サービスが充足しているのか、という視点からの説明も検討ありたい。とくに指標の見直しを検討ありたい。近隣市との比較はどうか。 ・民間企業（従業員40人以上）の障害（がい）者法定雇用率が段階的に引き上げられ、未達の場合は行政指導を受ける。障害（がい）者の最低賃金改善も課題である。労働人口が慢性的に不足する中、D&I推進と企業側の受入れ支援体制整備が急がれる。 ・障害（がい）者への金銭的助成・支給などの支援行為から一步前進させ、目標値を下回った要因・理由などを詳細に分析の上、障害（がい）者の就労・雇用促進支援を民間企業との連携を深め重点的に強化する必要がある。 ・官民協力の上、推進するフェーズへの転換時期ではないか。例えば、障害（がい）者の特性・特徴に配慮し、軽作業や単純・繰り返し作業、会話・コミュニケーションを必要としない作業などを企業側で切り出し、在宅業務制度や専門の支援員を配置するなど職場環境を整備し、障害（がい）者とジョブ・マッチングを個別に図るなど、障害（がい）者雇用に先進的に取り組む企業（オムロンなど）を調査・参考にしてはどうか。

		・グループホーム家賃助成者数が増加し目標を達成することは決して悪いことではないが、タクシー料金助成やグループホーム家賃助成のように予算以上に実績があったことを評価するのがよいかは疑問が残る。それよりも、障害（がい）者の就労支援や生活支援の環境整備などの指標として、登録事業所数や相談者数を成果指標にした方がよいのではないか。
--	--	--

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心で健やかな暮らしが守られている。
31の施策分野	3-5 社会保障
施策	(1) 生活困窮者等の経済的・日常的・社会的な自立の促進
施策の方向性	○生活保護法や生活困窮者自立支援法に基づき適切な支援が確実に行えるよう関係機関が連携し、相談支援体制の充実を図ります ○個別の状況に応じた支援プランをもとに自立に向けた支援を行います ○ハローワークなどとの連携による就労支援の充実を図り、生活困窮者等の経済的自立を支援します
施策を構成する主な事務事業	中国残留邦人等支援事業 生活困窮者自立支援事業 生活保護受給者等就労支援事業 生活保護適正実施推進事業 生活保護事業
関係する計画等	

宝塚市行政評価委員会（書面評価）

改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☐ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・担当部局評価では、支援対象者が増えたことを評価している。成果指標と評価理由があっていない。これらいずれも、就労しようとした人（相談件数）、自立相談支援プラン作成の相談をした人を母数として、母数も実績も評価できるようにすべきではないか。 ・担当部局評価は、目標値についての評価が無く、前年度に対するレビューとなっている。目標値に対する評価が必要である。 ・目標値が施策分野の他施策と異なり設定がR8までとなっており、その意図がわからない。第6次宝塚市総合計画はR12までの計画である。施策分野の全施策、事務事業について目標値設定はR12までとすべき。 ・「施策の方向性」に「関係機関が連携し、相談支援体制の充実促進を図る」とあるが、この過程を指標化できないか。 ・「施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組」が分かりにくい。各対象者・支援者毎に箇条書きにするなど、読み手が理解し易い書き方を工夫していただきたい。 ・自立相談支援プラン作成数は目標値と実績値の乖離が大きいのでその理由を記載もしくは目標値の修正を行うなど検討ありたい。

第6次宝塚市総合計画におけるめざすまちの姿	3 福祉が充実し、安心して暮らせるまち～健康・福祉～ ○社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心で健やかな暮らしが守られている。
31の施策分野	3-5 社会保障
施策	(2) 健やかな暮らしを支える医療保険制度等の適切な運営
施策の方向性	○国民健康保険税収入の確保や医療費の適正化に努めるなど国民健康保険制度を健全に運営します ○医療費負担を軽減し、安心して医療を受けることができるよう福祉医療費助成制度を適切に運営します ○高齢化の進行に伴う被保険者数の増加を踏まえながら、後期高齢者医療制度を適切に運営します
施策を構成する主な事務事業	中国残留邦人等支援事業 生活困窮者自立支援事業 生活保護受給者等就労支援事業 生活保護適正実施推進事業 生活保護事業
関係する計画等	特定健康診査等実施計画 国民健康保険データヘルス計画

宝塚市行政評価委員会（書面評価）

改善を求める点	☒ 説明の充実 ☒ 指標の改善 ☐ 業務の改善 ☒ 体系の整理 ☐ その他
評価結果	・成果指標①「国民健康保険費被保険者一人当たりの医療費」は保険者負担分などの補足説明が必要である。 ・成果指標③「国民健康保険特定健康診査受診率」の目標設定率と実績には乖離が大きい。短期的な目標として到達する可能性がある数値をあげてはどうか。 ・「施策の方向性」に福祉医療費助成制度に関する記述があり、福祉医療費助成制度に関する実績はいずれも目標値を上回っている。市民アンケートの指標があればそれを採用されてもいいのではないかな。 ・「施策の方向性」に「後期高齢者医療制度を適切に運営します」とある。他方「後期高齢者医療制度は広域連合が制度運営の主体となる」ともある。整合性はあるのか。市の役割は何か。「施策の方向性」は福祉医療費助成制度と合わせて記載してはどうか。 ・就業年齢70歳延長かつ75歳以上年齢の増加に伴う国民健康保険被保険者数の減少スピードは一層早まると考えられる。国民健康保険被保険者だけの対策や動向把握では、全市民の「健やかな暮らしを支える医療保険制度等の適切な運営」はできない。当該施策完遂には、課や部署さらには他医療制度との間で情報の交換、共有が避けられない。情報共有

		システムの構築、活用等の計画化、実行を急ぎ、その過程を指標にしてはどうか。 ・第6次宝塚市総合計画は「前期」「後期」と分けないとのことだが、当該施策の指標が前半5年だけとなっている。後半5年の計画はいつ、どのように市民に公表されるのか。また、徴収事業において保険税収納額目標値がR7年まで毎年同じとなっているが、推定被保険者増減数を参考に意思のある目標値が策定できないか。後半5年の目標値策定時はそのように願いたい。 ・指標③の国民健康保険特定健康診査受診率は再掲となっているので(3-1(1))、整理ありたい。なお、他市比較は市民にとって価値がある指標ではないか。
--	--	---

4 第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価結果

基本目標	【基本目標3】 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり
	宝塚市行政評価委員会（対面評価）
基本的方向 (1) 地域における産業振興と雇用の確保	○取組の結果として以下の説明があった。 ・重点取組「モノ・コト・バ宝塚による情報発信と充実」について累計 185 選定資源があり、令和 5 年度は6回のイベント物販と冊子作成、SNS によるキャンペーン、BS 番組出演、20 歳のつどいでの配布などを行った。 ・市内の新規出店にかかる支援制度で、令和 5 年度は 1 件補助を行った。 ○以下のような課題や意見が付された。 ・地方創生に寄与するためには雇用と産業の振興が必要でありいかに活性化されたかがわかり、担当部局が行っている事業効果も測れるような KPI の設定ができるよう、今一度見直してはどうか。 ・新しい事業者の掘り起こしと減りつつある現状の事業者を支えることはいずれも取組が必要であり、現在事業を行っている事業者へのヒアリングを急ぐべきである。 ・現状の KPI では女性活躍や若者就労支援の部分が見えない。適切な指標の追加を検討ありたい。
(2) 多様な文化政策の展開	○取組の結果として以下の説明があった。 ・文化芸術センター、手塚治虫記念館、文化創造館の3館が連携してスタンプラリーを行うなど点ではなく線でつなげる事業を行っている。 ・文化政策においても観光施策と絡めながら宝塚歌劇の市民貸切公演など文化芸術に慣れ親しんでいただく取組を行っている。 ・協働による文化芸術関連事業数はコロナの影響を受け減っていた部分が一定数戻ってきている。一方で、高齢化の影響もありコロナから再スタートを切れていない人もいるという課題がある。 ・文化芸術関連ページのアクセス数はコロナからの回復により後援事業の掲載件数が増えたため閲覧数も増加した。 ○以下のような課題や意見が付された。 ・文化芸術関連ページのアクセス数が増えたということは評価できるが、どのような人がアクセスしているのか、何を目当てに来ているのかなどニーズを把握することが必要である。

	・KPIの「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合について、基準値と実績値の測り方に誤りがあるのではないか。また市民アンケートは指標に直接影響するものではないため、指標の再設定を検討ありたい。 ・KPIの「協働による文化芸術関連事業数」は事業数ではなく参加者数や誘客数とすべきではないか。
(3) 観光集客の推進	○取組の結果として以下の説明があった。 ・観光入込客数については増加傾向にあり、コロナで一時落ち込んでいたが回復している。 ・観光コンテンツの新規開発について、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して実施、目標値に近い数のコンテンツ開発を行うことができ、翌年度も自主実施するようなコンテンツに成長することができている。 ・外国人観光客数が増加しており、今後も増える見込みであるためインバウンドに対する取組に注力していく。 ・情報発信に力を入れ、空港等で発信したことでよりその期間の手塚治虫記念館の来館者数が倍増するなど効果があった。 ○以下のような課題や意見が付された。 ・新規観光コンテンツについて一定の成果がでていることは事業者の機運醸成にもつながり評価できる。一方よりの確に効果を表すために数字の根拠を説明できるよう、データを取るべきである。 ・外国人観光客の増加が今後も予測されるため、どのようなニーズがあるのかを旅行データ等とともに分析し、西谷地域で民泊を実施するなど市内の滞在時間を延ばせるような取組を検討してはどうか。なお、受け入れのための環境整備も必要である。
(4) 北部地域のまちづくり	○取組の結果として以下の説明があった。 ・北部地域での移住支援については潜在的空き家の発掘も徐々にできはじめ、移住の取組が徐々に地域に浸透してきた。取り組む際には不動産の売買の話も絡むため、アドバイザーとして不動産業者にも入ってもらい進めている。 ・ダリア事業についてはデジタル田園都市国家構想交付金も活用して生産支援や加工品開発を行った。 ・公共交通のあり方検討として地域が主催する西谷公共交通対策会議に市も出向き、意識醸成を作りながら地域に合った交通の形について協議を行っている段階である。 ○以下のような課題や意見が付された。

		・北部地域を今度どのように進めていくかについては大きなグランドデザインを描く必要がある。そのような計画に基づいて施策を考えていくべきである。 ・公共交通については、カーシェアリングやデジタル活用の観点から、電気自動車の実証実験を行うことなども含め、幅広い視点で検討してはどうか。 ・移住イベントや空き家活用について、民間事業者のノウハウを活かして事業を推進してはどうか。市内には有力な企業もあるので連携を模索していただきたい。 ・ダリア生産についてや北部の社会インフラについても民間事業者や大学など産官学連携で品種改良や循環型水システムの導入など ICT・IoT の活用についても検討ありたい。
	全体について	・地方創生に資する取組については、全体的に効果が測れる指標を再設定いただく必要がある。 ・地方創生が人口減少抑止という大きな枠組みの議論であることに鑑み、単体の事業の議論ではなく、他部署他機関との連携を視野に入れ、それぞれの施策をつなげるなど、視野を大きくもつことも重要である。 ・国の交付金を活用した事業については、交付金を活用してきたことや地域の変化について、積極的に PR する方向で、可能な限り客観的に説明していく必要がある。

5 地方創生推進交付金事業の評価結果

NO.	事業名称	宝塚市行政委員会（対面評価）
1	やる気が生み出すイノベーション！新たな一歩応援事業	○主な取組の成果として以下の内容を確認した。 ・高齢化が進むダリア産業で、新たな担い手を2名確保し、売上高も天候不順の影響を受けながらも目標値を上回った。 ・ダリアを活用した特産品開発については、ダリアの球根を使った化粧水、ダリアをモチーフとしたキャラメルを生産を開発し、化粧水は百貨店等の催事において、またキャラメルはイベント等で販売し、好評であったことから KPI であるダリア売上高の向上につながったことを確認した。 ・北部地域の移住相談については14件の相談を受け、空き家の登録についても地域住民の理解が広がっており件数、問い合わせが増えている。 ・昨年度に続き、移住希望者を対象とした空き家視察ツアーを開催した。今回は比較的若い年代の参加が多かった。移住のきっかけづくりや関係人口の創出のため耕作放棄となった栗園を再生する事業を始めた。市街地等の多くの市民に、農業に関心を持っていただくと共に西谷地域住民と交流しながら作業に取り組んだ。 ・新ビジネスモデル等創出支援については新たなビジネスモデルを立ち上げようとする事業者へ2件補助金交付を行った。 ・新たな観光コンテンツとして4団体が認定され、目標値を達成した。交付金事業が終了した後も自立・継続し、より大きくイベント実施することができている。 ○その他以下のような意見が付された。 ・北部地域のランドデザイン、ロードマップを作成すべきである。 ・ダリアの生産やインフラ整備等にデジタルや ICT・IoT の目線も入れ、産官学で取組を検討してもよいのではないか。 ・外国人観光客の取組として北部西谷地区の空き家を活用して民泊をするなど新たな取組を検討してはどうか。 ・新たなビジネスモデルについて営業利益率を指標としていくかについては再検討したほうがよいのではないか。 ・新たな観光コンテンツにおいて成果があると思うのでそれを表彰、広報していく機会を作ってはどうか。
2	新しい生活様式に対応した起業家支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～	○主な取組の成果として以下の内容を確認した。 ・市内10件の小規模事業者や個人事業主に対し、店舗への改装等にかかる工事費の一部補助を行い、市内の魅力ある店舗づくりを進めた。令和4年度の補助件数は4者であったのに

		対し、令和5年度は商工会議所との連携もあり10者に増加した。 ・大学での起業の機運醸成セミナーを実施し、若年者の起業意識の醸成を図った。参加者にアンケートを行った結果、様々な起業に対する考え方を学べたといった所感を得た。 ・市内小学校全校において外部講師を招いたグループワークを実施しキャリア教育として児童の自己表現力や他者とのコミュニケーション能力などの向上に寄与した。 ○その他以下のような意見が付された。 ・若手起業家支援について、ターゲットを30代などに改めるべきではないか。
--	--	---

6 委員名簿

(敬称略、五十音順)

職務	氏名	所属等
委員	石丸 寛二	宝塚商工会議所会頭（新明和工業株式会社 取締役副社長執行役員）
委員	岡 絵理子	関西大学教授
委員	上月 宏之	近畿税理士会西宮支部 副支部長（税理士法人 アークマネジメント 代表社員税理士・所長）
委員	白井 りか	兵庫県阪神北県民局 宝塚健康福祉事務所副所長
副委員長	土山 希美枝	法政大学教授
委員	中谷 奈津子	神戸大学大学院教授
委員	中村 一雄	宝塚市自治会連合会理事
委員長	南島 和久	龍谷大学教授
委員	山下 洋介	市民公募委員